

# 地域の発展に貢献する、 キラリ輝く中小企業の挑戦



2019年10月

日本商工会議所

経営力向上に挑戦した「キラリ輝く中小企業 12選！」

## 省エネ経営

## 人材を切らずに電気を切る！

社長が決意！ 全従業員の前で「省エネ宣言」！

- 株式会社栄光製作所
- 所在地：群馬県富岡市神農原 1109-2
- 業種：電子機器の基板実装・組立・検査
- 資本金：1000万円
- 従業員数：48名
- 創業年：1973年10月
- 代表取締役：勅使河原寛

- 廃業寸前の苦しみと契約電力の倍増を経験し、社長が全従業員の前で「省エネ宣言」
- 大型機械の稼働時刻をずらし電力ピーク値を抑制、「電源管理会議」を日課に社内意識を高める
- 電子基板1枚あたりの電力使用量を半減、生産量は2.5倍にアップ
- 省エネから笑エネへ！ 省エネ大賞で「省エネルギーセンター会長賞」を受賞

### 一瞬のデマンド超過で契約電力が2倍近くに！

バブル崩壊で受注の80%を失い、廃業寸前に陥る経営危機を経験した際、「仕事を失っても人件費と電気代は毎月同じように出ていく」のだと実感し、ISO取得など環境活動を始めました。ある日、生産設備を入れ替えて、試運転のため一斉に電源を入れたことで契約電力がそれまでの2倍近くに跳ね上がってしまいました。一瞬にして今までや

ってきたことが崩れてしまい、悔しさこのままではいけないとの思いを抱き、やるからには「徹底した省エネ」を決意しました。



▲「成果を出しながら笑エネすることが大事」と語る勅使河原社長

### 電源管理を制するものは生産管理を制す！

最初は「開けた扉は閉める」「席を立つときは手元の電気を消す」ことから始めました。「人材を切らずに電気を切る」ことを実践したのです。毎夕4時には各作業工程の責任者を集めて「電源管理会議」を開き、翌日のスケジュールを共有します。大型機械の稼働時刻をずらして電力ピーク値を抑えれば、電気の基本料も抑えることができると考えたからです。生産量を落とさずに行うのは至難の業でしたが、「この機械とこの機械を組み合わせると…」と工夫しながら成果が始めると次第に面白くなってきました。朝礼では、前日に皆で頑張った電力使用量と電気代を発表して成果を褒め、次の取組みに繋げるよう促します。また昼休みの10分前には社内放送でその時点の電力ピーク値を伝え、使用量が予定よりも多い場合は午後の作業変更などを周知します。

最初は「だからどうすればいいの？」「その数字が何なの？」という反応もありました。毎日言葉で伝え、掲示物などを使って注意喚起することで徐々に一人ひとりの意識が高くなり、あちこちから「こうすればもっと省エネになる」といったアイデアがあがってくるようになりました。やはり毎日続けることが大事だと実感しています。省エネの取組みを通じて、社内の皆で頑張っているという一体感が出てきた頃から生産量も上向き、電子機器の基板1枚あたりの電力使用量を半減できたうえ、生産量は2.5倍にアップしました。こうした取組みの継続が評価され、2015年度省エネ大賞で「省エネルギーセンター会長賞」を受賞できました。まさに、「電源管理を制するものは生産管理を制す！」「省エネから笑エネへ！」ですね。



#### <手間をかけずに空調効率を上げる！>

- 作業場ごとに取り外し可能なビニールカーテンで仕切る
- エアコンの効率を上げるため、加湿器と扇風機を併用
- さらに階段に開閉用の取っ手がついた仕切り板を設置(右写真)

出典：商工会議所環境アクションプラン(2017.12)  
月刊石垣(2019年1月号)